

宮田 和樹 (みやた・かずき) 先生

株式会社実業之日本社
宣伝・プロモーション部/コンテンツ事業部 主任

株式会社実業之日本社

宣伝プロモーション部/コンテンツ事業部 主任

1972年生まれ。

1995年慶応義塾大学環境情報学部卒業

1998年同大学院政策・メディア研究科修士課程修了

オーストラリア、中央アジア、アメリカ南西部への旅と思索を経て、

2001年1月からインターネット関連の仕事に従事。

ヤフー株式会社、マイクロソフト株式会社などで、

ポータルサイトのトップページなどのプロダクトマネジメントを担当。

2009年8月から株式会社実業之日本社にて、

マーケティングやデジタルコンテンツの推進を担う。

電子書籍ビューワーの開発や、Ustreamを使ったプロモーション

施策などに携わる他、最近では、3D地球儀アプリ『ペアフット

ワールドアトラス』のローカライズを担当した。



〈講義概要〉

株式会社実業之日本社宣伝・プロモーション部/コンテンツ事業部主任として、電子書籍の企画やアプリの推進に携わり、出版産業の発展に尽力する宮田和樹氏が、紙からひろがる出版社のビジネスについて講義を行った。

講義ではまず、電子書籍が誕生してから約6年間の目まぐるしい変化・発展について米国IT企業のプラットフォーマーをキーワードに、詳細なデータを用いて分かりやすく説明し、電子書籍のメリットや課題、日本での電子書籍サービスの現状について解説した。「単純に紙の本をデジタルに置き換える電子化ではなく、デジタルならではの表現や読書体験が必要である」と言及し、今後の可能性について示した。続いて、イギリスで大ヒットした地図絵本『WORLD ATLAS 世界をぼうけん！世界地図』のアプリ版、3Dデジタル地球儀アプリの翻訳・日本語化プロジェクトについて、実際にアプリを見せながら楽しく解説。紙の絵本とアプリの併用というデジタル技術を活用した新たな出版ビジネスのあり方を示した。

最後には、ゆるキャラの概要やキャラクタービジネスについて詳しく解説。『くまモン！なかみぎっしりブック』刊行に関して、講義中にスカイプを用いて編集者に直接インタビューを行い、発売のきっかけや苦労した点など編集の裏側について紹介した。出版産業の様々なビジネスモデルを提示し、さらなる展開への軌道を見据える講義となった。

〈受講生の感想〉

近年凄まじい勢いで発展を見せる電子書籍についての今日までの動きと今後の展望、また、「ワールドアトラス」などタブレットやスマホというこれからの社会のマストとなるであろうデバイスを上手く使ったアプリの紹介もあって楽しめましたし、電子書籍と紙媒体という相反する両者がどうバランスをとっているのかなど非常に新鮮な情報を受容できる講義であったと感じます。

立命館大学・映像学部・2回生

電子書籍元年の「本当の」到来の予感やそれに関連する昨今の現状や、同内容の書籍物の別コンテンツにおける表現やマーケティングの違いを学ぶなど、時代の最先端をいく出版社ビジネスを感じ取ることができたと思う。特に電子書籍の登場という技術革新以後、出版社ビジネスは大きな変化を強いられたと思うのだが、その時代の波に負けずあの手この手で興味深いコンテンツを生み出そうとする姿勢が印象深かった。

立命館大学・産業社会学部・3回生

紙の本にも電子書籍にもどちらにもメリットがあるから、要領よく用途に合わせて使うことが大切なのではないかと思った。3D地球儀アプリは楽しく世界を学べるものだと思う。子どもにとって学びやすいものになっていて、このような学びに役立つようなアプリがどんどん増えたらいいなと思った。

立命館大学・産業社会学部・2回生

電子書籍の変遷を知ることができました。そしてワールドアトラスのアプリを実際デモで見せてもらって目で見て触れて聞いて世界の繋がりを体験でき、子どもたちもすごく楽しそうだったので、教育現場でも取り入れられたらいいなと思います。また、ゆるキャラについて定義や性質を知ることができて興味深かったです。様々な技術・ネットサービスが展開されとても便利ですが、紙の媒体の良さもあるし、共存している状態が続けばいいと思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

米国IT企業のプラットフォーマー3社を中心に発展していったことがよく分かりました。課題にも出ていたように、日本国内の事業の生き残りのために、これから出版社や印刷会社など工夫していかなければいけない世界なのかなと思いました。電子ブックと紙の本を実際に2つ比べてみると本当にデジタルの可能性を感じ、電子書籍も今後どんなものが出てくるのか注目していきたいです。

同志社大学・現代社会学部・4回生

最も印象に残ったお話しが、電子書籍を教育の現場で使うというお話しでした。教育というと学校教育かと思っていたのですが、絵本の電子書籍版を幼児教育の場を使って子どもたちに楽しく勉強できるということが非常に印象的で、もっと広まっていけばいいなと感じました。

立命館大学・映像学部・2回生

